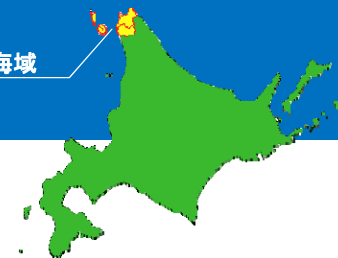


日本海宗谷海域 藻場ビジョン

実効性のある効率的な藻場の保全・創造に向けた行動計画

日本海宗谷海域



【藻場の保全・創造に向けた対策実施箇所及び対策内容】

産業上重要なリシリコンブの安定供給およびソイ類の隠れ場や餌場、ウニ類やアワビ類に対する餌場等の創出のため、高上げ礁等の設置等により、令和13年度までにコンブ類を対象とした6.55haの藻場を造成、ウニ類の食圧を抑制する密度管理等による36.0haの藻場を保全した、ドローンによる画像解析などの新技術の開発により効率的な藻場の管理を行い、計3,957haの造成・維持を目標とする。

藻場の衰退要因に応じたハード・ソフト対策

藻場の役割			藻場の衰退要因			対策実施対象種			
ソイ類等の生育場	磯根資源への餌料供給場	採介藻漁業	雑海藻による基質占有 コンブの繁茂水深帯に雑海藻が繁茂	ウニの食圧過剰 深所はウニ密度が高く、コンブは浅所(水深1-5m)に繁茂	基質不足・埋没 底質が砂のため海藻類の着生基質が不足	植食性小型巻貝類の食害 ほとんど全ての水深帯で確認され、一部で個体数が多い	コンブ類	ホンダワラ類	スガモ

対策の検討・実施体制及び対策内容

北海道藻場ビジョン検討会
北海道、学識者、水産試験場、市町村、漁業関係者

日本海宗谷海域検討部会

北海道宗谷総合振興局
市町村(礼文町、利尻富士町、利尻町、豊富町、稚内市)
漁業関係者(漁協、活動組織)

ハード対策候補 (海藻類の着生基質の設置)

高上げ礁・囲い礁 脚式構造の藻礁 高さのある藻礁

流動促進によるウニの食圧抑制 砂への埋没回避 砂への埋没回避

ソフト対策候補

岩盤清掃 ウニの密度管理 母藻設置・種苗投入 小型巻貝類の除去

チェーン振り等による ウニの食圧抑制 海藻のタネの供給 スポアパック(袋詰め)

小型巻貝類の食圧抑制

モニタリング・検証

[モニタリング]
・海藻類の着生状況
・食害生物の生息密度(ウニ類や小型巻貝類等)
・魚類の蟄集産卵状況
・ウニ類等の肥育状況等

[検証]
・検討部会及び検討会で対策実施状況を検証
・目標の達成状況、海域環境の変化、漁業情勢の変化に応じて計画見直し・改善

藻場面積の変化

調査年	コンブ場	ワカメ場	ガラモ場	アマモ場	その他
S53	~6,500	~1,000	~1,000	~1,000	~1,000
H4	~5,000	~1,000	~1,000	~1,000	~1,000
H10	~4,500	~1,000	~1,000	~1,000	~1,000
H24	~2,500	~1,000	~1,000	~1,000	~1,000
H29	~4,000	~1,000	~1,000	~1,000	~1,000

減少傾向

① 雑海藻による基質占有 (礼文島北東部、利尻島北～東部など)

- 底質は岩盤または転石
- 雑海藻のケウルシグサ等が繁茂
- コンブ場は衰退傾向

② ウニの食圧過剰 (礼文島西上泊、利尻島神居、野塚など)

- 底質は岩盤
- ウニ類の生息密度が高い
- 浅所(汀線から水深3m)にコンブ場が形成
- 藻場は衰退傾向

③ 基質不足・埋没 (豊富町など)

- 底質は主に砂
- 藻場はほとんど形成されていない
- 一部では基質が埋没(宗谷湾内など)

④ 藻場 (礼文島元地、利尻島南西部など)

- 底質は岩盤または転石
- 優良なコンブ場が形成

藻場の分布

平成4年度(点線)
平成10年度(破線)
平成24年度(実線)

藻場の衰退要因
● ウニの食圧過剰
● 基質不足・埋没
● 雑海藻
● 藻場

藻場分布
■ コンブ場
■ ガラモ場
■ ワカメ場
■ アマモ場
■ その他

底質
■ 岩盤
■ 礫
■ 中～粗砂
■ 細砂
■ 泥

■: ハード対策実施候補地
□: ソフト対策実施候補地